



第 12 回 創成シンポジウム

「感染症研究の最前線－エボラ・結核を例に－」の開催（お知らせ）

開催概要：

2014 年、日本においても、デング熱やエボラ出血熱の感染者や感染疑いのある患者が現れ、感染症に対する意識が高まりました。目に見えない感染症は、今や危機管理の中核に位置づけられるべき優先課題となってきています。

そんな中、既存の分野の枠を超えた研究や、次世代の北海道大学を担う若手人材の育成等を推進する北海道大学創成研究機構では、このたび、「感染症」をテーマにシンポジウムを開催することとなりました。

NHK「プロフェッショナル」、日本テレビ「世界一受けたい授業」などにも出演した人獣共通感染症リサーチセンターの高田礼人教授、同センターの鈴木定彦教授、工学研究院の矢久保考介教授が、それぞれの立場で様々なウイルスや細菌が増殖・感染する仕組み、治療法の開発状況、基礎科学からみた感染経路、世界での様々な対応策などについてお話しします。

日時：2015 年 2 月 24 日（火）17：30～20：00

会場：北海道大学学術交流会館講堂（札幌市北区北 8 西 5）

参加費：無料（どなたでもご参加いただけます）

プログラム：

講演 1：「エボラウイルスに迫る」

高田礼人（北海道大学人獣共通感染症リサーチセンター 国際疫学部門 教授）

講演 2：「結核 今そこにある危機」

鈴木定彦（北海道大学人獣共通感染症リサーチセンター バイオリソース部門 教授）

講演 3：「ネットワーク科学から見た感染症の流行と防疫」

矢久保考介（北海道大学大学院工学研究院 応用物理学部門 教授）

パネルディスカッション：

モデレーター 真砂徳子氏（フリーアナウンサー）

パネリスト 上記講演者 3 名

イベント URL : <http://www.cris.hokudai.ac.jp/cris/news/event/805.html>

主催 : 北海道大学創成研究機構 (<http://www.cris.hokudai.ac.jp/cris/>)

後援 : 札幌市, 札幌市教育委員会, 北海道新聞社

※詳細については, 添付資料をご覧ください。

お問い合わせ先

北海道大学創成研究機構 研究支援室 担当 : 柳谷 龍一 (やなぎや りゅういち)

〒001-0021 札幌市北区北 21 条西 10 丁目

TEL : 011-706-9280 FAX : 011-706-9275 E-mail : rso@cris.hokudai.ac.jp

参加費
無料

要事前申込

感染症研究の最前線

— エボラ・結核を例に —

北海道大学 創成研究機構
第12回 創成シンポジウム



17:30～17:35

挨拶

川端 和重

(北海道大学 理事・副学長／創成研究機構 機構長)

17:35～18:05

エボラウイルスに迫る

高田 礼人

(北海道大学 人獣共通感染症リサーチセンター 国際疫学部門 教授)

18:05～18:35

結核 今そこにある危機

鈴木 定彦

(北海道大学 人獣共通感染症リサーチセンター バイオリソース部門 教授)

18:45～19:15

ネットワーク科学から見た感染症の流行と防疫

矢久保 考介

(北海道大学 工学研究院 応用物理学部門 教授)

19:25～20:00

パネルディスカッション

モデレーター

真砂 徳子

(フリーアナウンサー)

日 時

平成 27年

(17:00開場)

2月24日 火 17:30～20:00

会 場

北海道大学 学術交流会館 2階 講堂

申込方法

下記URL内申込みフォーム、またはE-mail、FAXにて、2月20日(金)までに①氏名、②年齢、③職業、④代表者のメールアドレス(または電話番号、FAX番号)を明記の上お申し込みください。

申込みフォーム <http://www.cris.hokudai.ac.jp/cris/0224/>

※応募多数の場合は抽選となります。 ※応募に際してお預かりした個人情報は、本企画の連絡にのみ使用いたします。
※携帯電話のメールをご利用の場合は「@cris.hokudai.ac.jp」のドメイン指定受信の設定をお願いいたします。

主催：北海道大学 創成研究機構

後援：札幌市、札幌市教育委員会、北海道新聞社

お申込み・お問い合わせ：北海道大学 創成研究機構 研究支援室

TEL
011-706-9274

FAX
011-706-9275

E-mail
rso@cris.hokudai.ac.jp

URL
<http://www.cris.hokudai.ac.jp>



2014年、日本においても、デング熱やエボラ出血熱の感染者や感染疑いのある患者があらわれ、感染症に対する意識が高まりました。目に見えない感染症は、いまや危機管理の中核に位置づけられるべき優先課題となってきました。そんな中、本シンポジウムでは、最前線でエボラウイルスや結核菌の生態の解明に取り組んでいる研究者の研究を紹介し、また、異分野の研究者から物理的な視点で感染経路などについて解説していただきます。それぞれの立場から、さまざまなウイルスや細菌が増殖・感染する仕組み、治療法の開発状況、基礎科学からみた感染経路、世界での様々な対応策などについてお話しいたき、北海道大学における感染症研究の異分野融合の可能性について議論します。

講演者・モデレーター紹介

高田 礼人 (たかだ あやと)

1968年東京生まれ。96年北海道大学大学院獣医学研究科博士課程修了。97年同大獣医学研究科助手、2000年東京大学医科学研究所助手、2005年より北海道大学人獣共通感染症リサーチセンター教授、現在に至る。2007年よりザンビア大学獣医学部客員教授、2009年より米NIHロッキーマウンテン研究所の客員研究員に。専門は獣医学、ウイルス学。研究室と世界各国のフィールドを往来しながら、研究を行う。メディア出演はNHK「爆笑問題のニッポンの教養」「プロフェッショナル」TBS「情熱大陸」など。



鈴木 定彦 (すずき やすひこ)

1988年大阪大学大学院医学研究科博士課程修了。88年大阪大学微生物病研究所助手、91年大阪府立公衆衛生研究所研究員、97年同主任研究員、2003年鳥取大学医学部助教授、05年北海道大学人獣共通感染症リサーチセンター教授、現在に至る。2010年よりタイ・マヒドン大学客員教授、2011年より大阪大学微生物病研究所招聘教授。2008年ー2013年JICAザンビア国結核およびトリパノソーマ症プロジェクト・チーフアドバイザー。2010年日本ハンセン病学会賞受賞。



矢久保 考介 (やくぼ こうすけ)

1960年生まれ。1987年に北海道大学大学院工学研究科応用物理学専攻博士後期課程単位取得退学後、同年北海道大学工学部助手、講師、助教授、准教授を経て、現在は北海道大学大学院工学研究院教授。専門は物理学。フラクタル系の力学や不規則量子系に関する理論的研究を行ってきたが、最近では複雑ネットワークの統計的性質について主に研究している。複雑ネットワークに関する著書としては「複雑ネットワークとその構造」(共立出版)がある。



真砂 徳子 (まさこ のりこ)

埼玉県出身。明治大学文学部卒業。1997年北海道へ移住。ニュース、バラエティ、情報、教養番組等テレビ出演を中心に、アナウンサー、リポーター、キャスターとして活動。北海道の魅力をテーマに、取材・執筆にも携わる。現在は、北海道のマンパワーに着目した連載「真砂徳子の起-パーソン」(北海道建設新聞09年10月〜)を担当。13年9月「真砂徳子の起-パーソン 北海道発明日をひらく人々 ~未来を創造する51人~」(学研マーケティング刊)を発売。

